

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6115-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No51

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	情報システムの整備((1)-①)		
【事業概要】			
文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
【スタッフ】			
綿田 稔, 江村知子 (以上、企画情報部), 横山隆史 (管理部 LAN 委員), 俵木 悟 (無形文化財部 LAN 委員), 吉田直人, 加藤雅人 (以上、保存修復科学センターLAN 委員), 二神葉子 (文化遺産国際協力センターLAN 委員)			
【主な成果】			
システム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、動画サーバの導入、フロアスイッチの更新、センタスイッチの増設を進め、情報基盤の充実を図った。さらに国立文化財機構情報化担当者会議に出席し、機構としてのセキュリティ・ポリシーの制定、グループウェアの導入、VPN 接続などについて協議した。			
【年度実績概要】			
1. システム管理 所内におけるシステム管理については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行った。			
2. ネットワーク環境の整備 現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるように、動画サーバを導入するとともに、フロアスイッチを更新し、センタスイッチを増設した。			
3. 情報セキュリティ 国立文化財機構情報化担当者会議に出席し、機構としてのセキュリティ・ポリシーの制定、グループウェアの導入、VPN 接続などについて協議した。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6115-00

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No52

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び高速化を図るに当たり、現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。

【書式B】
(様式 1)

施設名 奈良文化財研究所
業務実績書

処理番号 6115-01

研究所 No53

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 ((1)-①)		
【事業概要】 コンピュータウイルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財研究課長 平石 憲良
【スタッフ】 太田 仁 [管理部] ほかに 1 名			
【主な成果】 コンピュータウイルスについて、唯一 USB ワームの被害報告があったが、注意喚起とユーザによる各コンピュータのチェックを行ない、それ以上の感染被害も出ることなく運用できた。			
【年度実績概要】 ウイルス対策ソフトは、サーバ・PC とそれぞれ別の会社のものを使用し安全を確保して来たが、USB ワームの被害報告が一件あった。これは所外の PC で USB フラッシュメモリを使用したため感染した事が原因で、ファイアーウォール及びサーバで行なっている Web 用・メール用のウイルス対策は万全であったといえる。 夏以降、本研究所のアドレスを詐称するメールが急増したようで、それに対するバウンズメールが届き、迷惑メール対策サーバの処理能力以上送られて来るようになった。ファイアーウォールの設定を変更することにより、迷惑メール及びウイルススキャンの処理スピードを確保した。 また、グループウェアサーバも更新しメール利用環境を向上させた。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 6115-01

研究所 No53

1. 定性的評価

観点	継続性	正確性				
判定	A	A				
備考 継続性: 適切なソフトウェア及び機器の更新を行なった。 正確性: 情報漏洩・改竄、ネットワークを介してのウィルス感染は皆無であった。						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	USB ワームによる被害報告が1件あったが、他への感染もなく、年度を通してみると十分なセキュリティが確保できたと考える。次年度以降もセキュリティに関する情報提供及び注意喚起に努めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ネットワーク機器及びサーバについては安定稼働できている。

【書式B】

施設名

東京文化財研究所

処理番号

6125-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No54

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	専門的アーカイブの拡充 ((1)-②)		
【事業概要】			
文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要な不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英
【スタッフ】			
田中 淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子 (以上、企画情報部)			
【主な成果】			
1)公開用 SQL データ・画像データの更新 2)近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、『日本美術年鑑』のテキスト化 3)劣化が進む貴重雑誌の CD-ROM 化 4)ガラス乾板等のデジタル化に向けての点検・整理			
【年度実績概要】			
<p>1)資料閲覧室の運営：文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、インターネット上での公開を目指して『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌の CD-ROM 化をすすめるとともに、所蔵ガラス乾板のデジタル化にむけての点検・整理を行った。国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。</p> <p>2)画像情報室：他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。06 年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルムについては文化遺産国際協力センターの協力を得て画像をデジタル化した。</p> <p>企画情報部にて作成・更新中の 35 種データベース：所蔵和漢書(～07),受入和漢書(08 年度分),所蔵洋書,所蔵簡易図書,売立目録,所蔵美術館博物館収蔵目録,和雑誌誌名,所蔵洋雑誌誌名,所蔵中国雑誌誌名,所蔵韓国雑誌誌名,所蔵和雑誌巻号(～02),所蔵洋雑誌巻号(～05),所蔵和雑誌巻号(03 以降),所蔵洋雑誌巻号(06 以降),所蔵中国雑誌巻号,所蔵韓国雑誌巻号,所蔵地方公共団体刊行報告書,所蔵香取秀真資料関係,展覧会(02 まで),展覧会(03 以降),近現代作家名,近現代展覧会開催情報(44 以降),写真原板,キャビネット写真,古美術文献目録(明治～65),近現代美術文献目録(59～90),美術館博物館名,東京文化財研究所年表,所蔵古美術展図録目次(89～01),美術研究総目次,所蔵近現代図録目次(48～90 年),撮影調査票,古美術展覧会開催情報(44 以降),物故者記事,美術懇話会,開所記念展覧会出品目録,</p> <p>インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の 13 種データベース：美術関係図書,伝統芸能関係図書,保存修復関係図書,売立目録,展覧会カタログ,和雑誌,写真原板,美術関係文献,『保存科学』所載文献,伝統芸能関係三雑誌所載文献,『美術研究』所蔵文献,近現代美術展覧会開催情報,伝統楽器情報,</p>			
【実績値】			
通常フルカラー画像撮影件数 1,200 件、特殊画像撮影件数 387 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 99%、図書書受入数:和漢書 706 件,洋書 7 件,展覧会図録・報告書等 1,993 件,雑誌 2,191 件(受入総数 4,897 件),35 種の目録所在情報(作成件数 68,523 件,収録件数 717,282 件,公開件数 702,511 件),インターネットで公開中の目録累計数 13 種,資料閲覧室の利用状況:公開日総数 141 日・利用者年間合計 987 人			
【備考】			
所内イントラによる目録の公開 http://www2.tobunken.go.jp			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	文献資料受入 件数	画像資料収集 件数	データベース 公開件数	閲覧者利用者 数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも目標値を満たし、閲覧室利用者の増加にみられるように国民の文化財理解にも資することができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	さらなる国内外の関連機関との調査・協議を進め、当研究所の文化財アーカイブの特色を生かした資料収集および公開を進めていきたい。

【書式B】

施設名

東京文化財研究所

処理番号

6125-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No55

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	東京文化財研究所七十五年史編纂事業((1)-②)		
【事業概要】			
<p>本事業は、東京国立文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和 5 年 6 月に設立されてから平成 17 年で 75 周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには東京国立博物館との統合を迎える平成 18 年までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、所史を編集する。</p>			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子
【スタッフ】			
<p>中野照男、後藤嘉信（以上管理部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、佐野千絵、川野辺渉（以上保存修復科学センター）、岡田 健（文化遺産国際協力センター）、田中 淳、塩谷 純、山梨絵美子、中村節子、中村明子、井上さやか（以上、企画情報部）</p>			
【主な成果】			
<p>『東京文化財研究所七十五年史 本文編』（仮称）を平成 21 年度に刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、編集、校正を進めた。</p>			
【年度実績概要】			
<p>『東京文化財研究所七十五年史 本文編』（仮称）を以下のような内容で平成 21 年度に刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、校正を進めた。</p>			
【沿革・機構編】			
<p>前史／帝国美術院附属美術研究所時代／文部省附属美術研究所時代／国立博物館附属美術研究所時代／東京国立文化財研究所時代／独立行政法人文化財研究所時代</p>			
【調査研究編】			
<p>美術部／無形文化遺産部／保存科学部／修復技術部／情報資料部／文化遺産国際協力センター</p>			
【資料編】			
<p>旧職員物故者略歴／年表</p>			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 6125-01

研究所 No55

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度刊行された資料編をもとに、作業を進めることができた。近年、組織の改変が頻度を増す中で、当研究所の責務を見直す契機ともなっている。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度での刊行に向けて作業を進めることができた。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6125-02

(様式 1)

業務実績書

研究所 No56

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 ((1)-②)		
【事業概要】			
<p>無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画（平成 17 年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。</p>			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長 宮田繁幸
【スタッフ】			
<p>高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部） 土田牧子、綿貫 潤、星野厚子（以上、研究補佐員）</p>			
【主な成果】			
<p>2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化については、データベース作成の一環として、昨年度寄贈を受けた歌舞伎写真（故・梅村豊撮影）の整理に本格的に着手した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>現在、無形文化遺産部が推進している音声記録のデジタル化は、これまでに収集蓄積してきた資料を補完する分野のものに重点を置いている。具体には、資料的な価値が高く、なおかつ年代的に溯る資料の絶対数が少ない古曲（河東節・一中節・宮藺節・萩江節）、および、旧芸能部の時代には収集実績の比較的少なかった新内節や諸芸（舌耕芸など）の分野であり、今年度は 233 枚の CD を作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済み CD を 116 枚作成した。</p> <p>所蔵画像資料のデジタル化事業の一環として実施しているデータベース作成の内、今年度は昨年度寄贈を受けた歌舞伎写真（故・梅村豊撮影）の整理を中心に行った。整理の結果、それらはモノクロだけで 8 万枚以上に及ぶ規模であることが確認されたが、その内、昭和 30 年代のモノクロネガ 841 点について所蔵一覧を公表した。このほか、無形文化財関連の作成 DVD 511 枚を登録した。</p>			
【実績値】			
<p>作成資料 [CD] 349 枚 [DVD] 511 枚</p>			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、現存資料の確認すら十分に行われていない古曲などに加え、これまで収集実績の乏しかった分野の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来水準を維持している。また、所蔵資料の内、写真資料については、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6135-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No57

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	国際資料室の整備 ((1)-③)		
【事業概要】 本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、国際文化財保存修復協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員 二神葉子
【スタッフ】 清水真一、岡田 健、山内和也、朽津信明、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）			
【主な成果】 情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集 イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。			
【年度実績概要】 1 資料の収集とデータベース化 今年度はインド、インドネシア、中国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍 1,003 点（和漢書 347 点、洋書 656 点）、雑誌 235 点の資料を収集し、データベース化した。 2 『国際資料室蔵書目録』の作成 2008（平成 21）年 3 月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した 1,003 点（和漢書 347 点、洋書 656 点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌 438 種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。			
【実績値】 目録作成数 1 件			
【備考】 『国際資料室蔵書目録』 171p 09.3.31			

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6135-00

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No57

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	目録作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究業務に必要な資料を効率的に多数収集し、データベース化している。内容は外国の調査地で収集した資料や、文化財保護制度に関する外国語文献など独創的である。次年度以降も、本センターの他事業との連携をいっそう強化し、資料の収集を実施する。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	資料の収集は例年の実績を堅持し、順調に実施することができた。今後も、書籍に限定せず会議資料や機関のパンフレット、地図など、多様な資料の充実に努めたい。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6145-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No58

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究 ((1)-④)		
【事業概要】			
<p>世界各地の文化財およびその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する</p> <p>また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。さらに、ウェブサイトを利用してセンターの事業について広報を行う。</p>			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員 二神葉子
【スタッフ】			
清水真一、岡田 健、山内和也、朽津信明、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）			
【主な成果】			
<p>情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。</p> <p>情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集 イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。</p>			
【年度実績概要】			
<p>1 情報の収集とデータベース化</p> <p>平成 13 年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。</p>			
<p>2 情報の発信</p> <p>これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文について PDF 化を行い、ウェブサイトにて公開している。印刷物としては、まず、文化遺産国際協力センターが文化遺産保護の専門家を招へいして研修を行うなどの国際協力事業を行っているイラクの文化財保護に関する法令をアラビア語から和訳し、「文化財保護関連法令集 イラク」として印刷・出版した。また、今年度に文化遺産保護に関する交流について教育・文化・科学省を相手側として合意書を締結したモンゴル、平成 19 年度に中央アジア 5 カ国を招いて「アジア文化遺産国際会議」を開催したウズベキスタンの法令についても、モンゴル語、ロシア語からそれぞれ和訳し、関連資料とともに「文化財保護関連法令シリーズ」として出版した。さらに、日本の文化財保護法について、各条文に関連する判例の要旨を添付するとともに、最新の改正を反映した英訳がなかったことから英訳を行い、やはり「文化財保護関連法令シリーズ」として出版した。なお、法令の翻訳にあたっては、あえて原語に忠実で説明的な直訳を心がけることで、日本語の類似の制度などとの混同を避ける工夫を図っている。</p> <p>このほか、平成 13 年度～17 年度の「アジア文化財保存セミナー」報告書を PDF 化した。さらに、文化遺産国際協力センターのウェブサイトで、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。</p>			
【実績値】			
法令集作成数 4 件			
【備考】			
<p>文化財保護関連法令集 イラク</p> <p>文化財保護関連法令シリーズ 3 日本、4 ウズベキスタン、5 モンゴル</p>			

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6145-00

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No58

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	出版物作成数	データベース 作成数				
判定	A	A				
備考 文化財保護に関する法令の収集・翻訳、さらに出版は他に例がない事業であり独創的であり、当該分野への貢献度を高く評価するものである。今年度は法令集をシリーズ化して出版することができた。また、研究成果の発信も速やかに実施している。これらの事業を来年度以降も引き続き行っていく。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修復および国際協力に関する資料の蓄積、および本センターの調査研究成果の発信を順調に実施することができた。 次年度以降も当該年度の水準を維持し、いっそうの資料収集・整理、成果発信を実施していきたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もさらに資料の収集・蓄積と発信を行っていきたいと考えている。

【書式B】
(様式 1)

施設名 奈良文化財研究所
業務実績書

処理番号 6135-01

研究所 No59

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実 ((1)-③)		
【事業概要】 文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者及び一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良
【スタッフ】 太田 仁 [管理部] ほかに 6 名			
【主な成果】 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。			
【年度実績概要】 図書の整理： 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行った。また、国立情報学研究所が構築している大学図書館等の総合目録データベース (NACSIS-CAT) に遡及入力を行なう等、所外の利用者への情報提供も行った。 利用者サービス： 図書資料室は一般公開施設と位置づけ広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じてサービスを行った。 写真の登録： 図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。			
【実績値】 受入数： 購入図書 986 冊 寄贈図書 9,148 冊 雑誌 1,301 タイトル 写真 4,102 点 利用者サービス： 一般利用者数 481 人 利用冊数 3,008 冊 来館者複写件数 883 件 遠隔利用： 複写件数 692 件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 6135-01

研究所 No59

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考						

2. 定量的評価

観点	資料の受入数	目録所在情報 作成件数	利用者数	複写件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究所の図書資料室は他機関からの寄贈資料が蔵書の多くを占めるが、今後はナショナルセンターとして国内に無い資料等の計画的収集も考えて行きたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	考古学分野を中心とする専門図書館と位置づけられる本研究所の図書資料室であるが、利用者数、利用冊数、複写件数いずれも増加が続いており極めて順調といえる。

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6145-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No60

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実 ((1)-④)		
【事業概要】 文化財情報の電子化及びシステムの構築に関する研究を行い、文化財の特性に対応したシステムによるデータベースの構築を継続、データの拡充を行う。一般に公開するデータベースへとデータを提供するとともに、内部の業務用データベースのデータ拡充もあわせて行う。			
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	文化財情報研究室長 森本 晋
【スタッフ】			
【主な成果】 遺跡情報の分析と世界的な標準化に関する研究に基づき『遺跡情報交換標準の研究第2版』を刊行した。文化財情報の電子化を進め、業務用並びに公開用のデータベースの充実を図った。			
【年度実績概要】 文化財情報の電子化及びシステム構築については、研究会等においてそれらの研究成果を公表するとともに、所外の研究状況について情報を収集し、今後のシステム構築、改良等の検討材料とした。10月には地理情報システム学会大会において「遺構情報モデルへの時間スキーマ適用法の検討」と題して、遺構情報の分析に関する研究成果を発表した。また、11月に第13回となる遺跡GIS研究会を開催し、LRFによる簡易測量とGISアーカイブの現状、電子化された発掘調査報告書の統合的分析手法の検討と開発、三次元計測とGISミクロからマクロまで、位置と向きを利用した写真と3次元モデルの連携について研究発表が行われた。2月には遺跡情報を交換するための基礎研究成果を『遺跡情報交換標準の研究第2版』として刊行した。 文化財情報の電子化として、全文、木簡、図書、抄録、写真、遺跡、航空写真等の各データベースにおいて、データの更新整理並びに追加入力を行い、正確なデータの充実を努めた。また、業務用のデータベースについては、各担当で作成したデータの追加を行った。 データベースへの入力に際しては、事前にデータ整理研究が必要である。本年度も個々のデータについて広い範囲の文献や参考書目等の調査を行いながらデータの拡充を行った。 写真データベースの基礎となる写真の電子化に関しては、35mm、ブローニ、4×5、8×10、ガラス乾板、奈文研が発注した空中写真について電子化を継続した。航空写真データベースにおいては、入力の基礎となる原フィルムからのマイクロフィルム作成、マイクロフィルムからの電子画像の作成を継続して行った。			
【実績値】 データベースの件数 平成20年度末 () 内は平成19年度末の値 全文 141,373 (119,648)、木簡 147,550 (152,352)、図書 269,826 (298,341)、抄録 54,679 (49,476)、写真 193,219 (180,204)、遺跡 402,908 (383,816)、航空写真 1,170,332 (1,130,890)			
【備考】 地理情報システム学会第17回研究発表大会 第13回遺跡GIS研究会			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 6145-01

研究所 No60

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	総じて事業は順調かつ効率的に進捗していることから、総合評価をAにした。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。システムの改良を行いつつ、新規入力のみならず、既存データの更新も推進し、全体として当初計画通り進捗しているので、順調と判定した。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6215-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No61

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】			
『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でも PDF ファイル形式でも配信されている。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
【スタッフ】			
田中 淳, 山梨絵美子, 津田徹英, 塩谷 純, 綿田 稔, 皿井 舞, 江村知子, 土屋貴裕, 城野誠治, 中村明子, 井上さやか, 鳥光美佳子, 中村節子 (以上、企画情報部)			
【主な成果】			
『年報』2007年度版、『概要』2008年度版、『東文研ニュース』33号-36号、『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）をそれぞれ刊行し、媒体の特質に応じて、研究所のさまざまな活動を広報した。			
【年度実績概要】			
1. 『年報』2007年度版の刊行 2007年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。			
2. 『概要』2008年度版の刊行 2008年度版の構成は昨年度版にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその割付は従来通り、日英2カ国語を併記し、図版を多用した。			
3. 『東文研ニュース』の刊行 『東文研ニュース』の構成は、従来通り、四半期ごとの活動報告、文化財の研究方法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、刊行物の案内、新人紹介、人事異動などとした。また『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。			
【実績値】			
刊行物数	「東京文化財研究所年報」2007年度版 1,000部 『東京文化財研究所概要』2008年度版 4,000部 『東文研ニュース』第33号・第34号・第35号・第36号 4,000部		
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図った。またそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大した。こうした結果、広報企画事業の適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性が改善された。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図ったこと、そしてそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大したことから、東京文化財研究所における広報活動の事業展開が拡充された。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6215-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No62

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『平成 19 年度日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】 各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子
【スタッフ】 田中 淳、勝木言一郎、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）、相澤正彦、三上 豊、吉田千鶴子、森下正昭（以上、企画情報部客員研究員）、中野照男（副所長）			
【主な成果】 『日本美術年鑑』を年 1 冊、『美術研究』を年 3 冊刊行することを目的とする。今年度は『平成 19 年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』395～397 号を刊行することができた。			
【年度実績概要】 ① 『平成 19 年版 日本美術年鑑』 2006（平成 18）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者 ② 『美術研究』395 号 鄭岩（加藤直子訳）「漢代喪葬画像における観者の問題」 綿田稔「自牧宗湛（下）」 田中淳「研究ノート 尾高鮮之助と岸田劉生」 小林未央子「研究ノート なめらかな表面のために—小出権重再考—」 ③ 『美術研究』396 号 渡邊雄二「聚光院方丈障壁画を語る文脈」 綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説—障壁画作期議論の前提として—」 高橋秀治「研究ノート 藤雅三《破れたズボン》発見報告」 綿田稔「展覧会評 狩野永徳展」 ④ 『美術研究』397 号 林玲愛（守屋美佐子訳）「高句麗古墳の角抵図に登場する「西域人」のイメージ」 角田拓朗「満谷国四郎《自画像》の彷徨い—五姓田派の所在を問うことの意味—」 田中淳「図版解説 萬鉄五郎 《軽業師》および《太陽と道》」 津田徹英「書評 大西磨希子『西方浄土変の研究』」			
【実績値】 『日本美術年鑑』刊行数 1 点 (①) 『美術研究』刊行数 3 点 (②～④)			
【備考】 ① 『平成 19 年版 日本美術年鑑』東京文化財研究所 08.3 ② 『美術研究』395 号 東京文化財研究所 08.8 ③ 『美術研究』396 号 東京文化財研究所 08.11 ④ 『美術研究』397 号 東京文化財研究所 09.3 各配布先リスト			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>広く文化財、美術史研究の情報を調査収集、データ化した『日本美術年鑑』は、計画通り刊行できた。しかし、情報量の増大にともなう編集作業の増大は、情報のより精査が必要になっている点、及び編集作業の効率化を次年度にむけた改善点としてあげたい。また、『美術研究』においては、研究論文だけではなく、書評、展覧会評、研究ノートなど、将来の研究成果を見据えた萌芽的な研究をも掲載するようにしたことなどで、各号が質量ともに充実する傾向にあり、この点は評価できる。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>中期計画にあげた実施状況は、順調である。『日本美術年鑑』については、情報の調査収集と編集作業の効率化にむけて、あらためて問題点を改善し、次年度にむけて改善したいと考えている。</p>

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6215-02

(様式 1)

業務実績書

研究所 No63

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	「無形文化遺産研究報告」・「無形民俗文化財研究協議会報告書」の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成19年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画の年度平均以上確保する。		
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長 宮田繁幸
【スタッフ】	高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部） 大島暁雄、深津（福岡）裕子、森下愛子、服部比呂美（以上、客員研究員） 土田牧子（以上、研究補佐員）		
【主な成果】	1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第3号の刊行。 2) 平成20年11月20日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第3回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。		
【年度実績概要】	<p>○『無形文化遺産研究報告』第3号を以下の内容で刊行した。</p> <p>高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」、近藤静乃「現行法会における付物・付楽の諸相—2008年勤修の法会に関する調査報告—」、菊池理予「無形文化財としての工芸技術—染織分野を中心として—」、深津裕子「伝統工芸技術の記録と保存—江戸時代後期の「葛布地道中着」に用いられた素材の復元を事例として—」、森下愛子「近代京都の陶芸技術にみる古典へのまなざし—革新と復古の間で京焼陶工が目指したもの—」、大島暁雄「民俗行事の変化とその評価について—愛知県「鳥羽の火まつり」を例に—」、服部比呂美「立物花火の技術伝承—愛知県新城市東新町「立物保存会」の事例から—」、土田牧子「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真」、飯島満「国立音楽大学附属図書館寄贈 竹内道敬旧蔵音盤目録(3)」</p> <p>○「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとした『第3回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。</p> <p>I.序にかえて、II.趣旨説明、III.報告：1.「年中行事における飾り物継承の諸問題—七夕馬とツクリモノ—」服部比呂美（東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員）、報告：2.「西塩子の回り舞台の復活と活用」石井聖子（常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館）、報告：3.「長浜曳山祭における曳山の保存と修復について—祭りのなかで曳山を活かしつづける方途—」橋本章（長浜市長浜城歴史博物館）、報告：4.「江名子バンドリの製作技術の材料確保、保護するための取り組み」田中彰（高山市教育委員会事務局参事兼文化財課長）・保木隆（江名子バンドリ保存会代表）、IV.総合討議、V.参考資料、VI.アンケート結果、VII.あとがき</p>		
【実績値】	<p>発行数 2件 (①,②)</p> <p>発行部数 1,200部 (『無形文化遺産研究報告』第3号 231p 700部、『第3回無形民俗文化財研究協議会報告書』 126p 500部)</p>		
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	発行部数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>『無形文化遺産研究報告』：今回は、無形文化財の芸能、工芸技術、無形民俗文化財の民俗行事、民俗技術の論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。</p> <p>『無形民俗文化財研究協議会報告書』：当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書の刊行を見る予定である。</p> <p>以上を総合的に判断して、Aと判定した。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌とも年1回の刊行が達成できたため、順調と判断した。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6215-03

(様式 1)

業務実績書

研究所 No64

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	『保存科学』48号の出版 (2)-①		
【事業概要】	<p>保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究に基づく資料の作成・公開を目的とし、年1回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置概報などの活動報告を掲載する。また、より一層の研究成果の公開につとめるため、『保存科学』掲載論文の電子化(画像ファイル化)を行い、最終的にインターネット上での全文掲載による公開を行う。</p>		
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長 石崎武志
【スタッフ】	川野邊渉、清水真一、佐野千絵(編集担当)		
【主な成果】	<p>25本の投稿を受け、外部査読者2名を含む編集委員会で査読し、報文9本、報告16本、計25本の掲載を決定した。本誌体裁は変更せず、総頁数245頁、600部印刷、関係諸機関に580部配付した。</p>		
【年度実績概要】	<p>保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館学芸研究部保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の5名からなる編集委員会によって編集を行った。平成20年度は、25件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第48号を発行した。論文題目を以下に記す。</p> <p>1. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析－保存施設稼働時の気象条件の影響と発掘直後の仮保護施設の影響－ 2. ポーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査 3. 紫外線照射装置を用いた磨崖仏着生生物の除去 4. 飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について 5. 二酸化炭素処理・酸化エチレン処理がジアソタイプ複写物に及ぼす影響 6. 色材の“デジタルカメラ分光分析”に関する基礎的検討 7. 三十三間堂の外観塗装材料である赤色顔料に関する調査 8. 敦煌莫高窟第285窟北壁壁面に描かれた如来および菩薩の衣の彩色技法－赤色表現を例として－ 9. 敦煌莫高窟第285窟南壁龕楣の彩色材料および技法 10. 敦煌莫高窟第285窟壁画の保存状態 11. 銅系緑色顔料の多様性とその使用例 12. 国宝高松塚古墳壁画の材料調査の変遷 13. 桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査(Ⅱ) 14. 熊本城「細川家舟屋形」の保存環境調査 15. 国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開時における環境測定 16. キトラ古墳保護覆屋内の環境について(4)－周辺風環境の解析および覆屋内環境監視－ 17. キトラ古墳の微生物等の状況報告(2008) 18. 古墳等の高湿度作業環境下での使用を想定した木材保存剤のかび抵抗性試験とTVOC測定 19. 現地保存される古墳・遺構等における土壌及び石材に対する殺菌消毒剤の効果について 20. 昭和初期和紙の褐色斑からの真菌分離および蛍光に関する報告 21. 日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバムシ <i>Prionium cylindricum</i> による被害事例について 22. 穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察－日光輪王寺における虫害を事例として－ 23. X線CTスキャナによる虫損部材の調査 24. 「殺虫/殺菌処理、防虫剤などについての緊急アンケート」調査結果について 25. 展示公開施設の館内環境調査報告－平成19年度－</p>		
【実績値】	<p>印刷部数 600部 配付部数 580部 本誌体裁B5、総頁数245頁</p>		
【備考】	<p>1. 「保存科学」第48号 245p 09.3.31 2. 配布先リスト</p>		

1. 定性的評価

観点	適時性	正確性	継続性	効率性	発展性	独創性
判定	A	A	A	A	A	A
備考 掲載論文はいずれも初出論文であり、査読を経て正確性が高く、将来の研究発展への寄与も著しく高い。各論文で取り上げている諸問題は適時性が高く、国内外専門研究機関からの評価も高い。						

2. 定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数	印刷頁数			
判定	A	A	A			
備考 B 4 版体裁の本誌として限界量の刷り上がり約 250 頁のボリュームがあり、研究動向を把握する上で研究者にとって必須な状況にある。印刷・配付部数については適宜見直しを行い、印刷形態での配付の限界を見極め、ホームページ上にすみやかに各論文を掲載し、インターネット公開を進めている。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新規性の高い論文・研究情報を安定してすみやかに公開・提供し、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。印刷総頁数は限界量となっており、将来的に掲載論文数が増えていく場合には、2分冊化についても検討すべき時期が来ている。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	確実に刊行を重ねており、今号で 48 号を数えている。国内研究情報を集約した基本の研究雑誌として、外部からの評価は高い。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6215-04

(様式 1)

業務実績書

研究所 No65

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
【事業名称】	第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】	文化財の保存・修復に関する国際研究集会(第31回)「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書(英文)を刊行する。		
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長 石崎武志
【スタッフ】	佐野千絵、三浦定俊、犬塚将英、木川りか(以上、保存修復科学センター)		
【主な成果】	文化財の保存・修復に関する国際研究集会(第31回)「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書(英文)を刊行した(英文、A4サイズ、フルカラー、約200ページ、印刷部数500部)。海外講演者8名、日本人講演者等7名 計15論文と会場での質疑応答、総合討議を掲載。会議出席者と国内外の関係機関へ配付した。		
【年度実績概要】	<p>下記の内容の報告書を刊行した。</p> <p>Environmental changes and historic remains conservation: In case study of Buddhist cave-temples at Mogao Grottoes, Dunhuang, northwestern China</p> <p>Lascaux cave (France): A difficult problem of conservation</p> <p>A geotechnical study for conservation of the Muryong Royal Tomb of the Baekje Dynasty, Korea</p> <p>Thermal and moisture characteristics of the Takamatsuzuka Tumulus mound and its cooling</p> <p>Environmental monitoring as a decision making tool</p> <p>The Lascaux cave: monitoring of microbiological activities</p> <p>Microbiological issues in the conservation of mural paintings of Takamatsuzuka and Kitora tumuli in Japan</p> <p>Microbiological survey of the stone chambers of Takamatsuzuka and Kitora tumuli, Nara Prefecture,</p> <p>Japan: a milestone in elucidating the cause of biodeterioration of mural paintings</p> <p>Control of temperature and humidity surrounding the stone chamber of Takamatsuzuka Tumulus during its dismantlement</p> <p>Geotechnical properties of Takamatsuzuka Tumulus and its stability</p> <p>Integrated non-invasive techniques for the diagnosis and conservation of mural paintings and other pictorial works</p> <p>Application of the hammering test and acoustic emission technique to stone cultural properties</p> <p>Effect of climatic load on the material properties of the Humayun Sandstone</p> <p>Prediction of mold fungus formation probability on critical building components in residential dwellings</p> <p>The Lascaux cave and the climate change</p> <p>Overall Discussions</p>		
【実績値】	文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書「文化財を取り巻く環境の調査と対策」(英文) 印刷部数 500部 国際研究集会出席者、国内関係諸機関、海外専門研究機関へ配付		
【備考】	<p>1. 第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書の刊行 平成21年3月</p> <p>2. 配布先リスト</p>		

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	正確性	独創性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 壁面の現地保存における被害事例とその計測・評価、環境解析およびその対策事例を含む総合的な内容となった。環境計測、シミュレーション解析、微生物学的手法による解析など多岐にわたる研究手法を含み、当該分野で類を見ない充実した内容となった。特に高松塚古墳の事例について日本の専門研究者が多数執筆し、海外への情報発信を的確におこなっている点を評価した。						

2. 定量的評価

観点	印刷部数	印刷頁数	掲載論文数			
判定	A	A	A			
備考 当初予定に比べて、執筆者から提供された原稿が豊富で総頁数も増え、海外への情報発信のために印刷部数も見直して増やすなど、ニーズを読みとり適宜計画を変更し、より良い報告書刊行ができた。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	壁面の現地保存における被害事例とその計測・評価、環境解析およびその対策事例を含む総合的な内容に加え、イタリア、フランス、ドイツなど諸外国の取り組みをふんだんに盛り込み、特に壁面の保存計画策定について、有用な事例集を編纂できた。海外への情報発信の1成果として、今後の研究交流の礎になると期待する。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	単年度の事業であり、本年の予定を順調に達成した。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行 ((2)-①)		
【事業概要】 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行する。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			
【主な成果】 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 9 点、史料等 9 点、図録・カタログ 5 点、リーフレット 2 点、合計 35 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた			
【年度実績概要】			
(紀要など) 『奈良文化財研究所紀要 2008』 2008.6、3,000 部 『奈良文化財研究所概要 2008』 2008.6、3,500 部			
(ニュース) 『奈文研ニュース』 NO.29、2008.6、3,000 部、『奈文研ニュース』 NO.30、2008.9、3,000 部 『奈文研ニュース』 NO.31、2008.12、3,000 部、『奈文研ニュース』 NO.32、2009.3、3,000 部 『埋蔵文化財ニュース』 NO.134(遺跡の保存整備のための事前調査法)、2008.12、3,500 部、 『埋蔵文化財ニュース』 NO.135(年輪年代学と画像計測)、2009.3、3,500 部、 『埋蔵文化財ニュース』 NO.136(標本リストー哺乳類編一)、2009.3、3,500 部、 『埋蔵文化財ニュース』 NO.137 (埋蔵文化財関係統計資料)、2009.3、3,500 部			
(研究報告書、研究論文集等) 『平安時代庭園に関する研究 2ー平成 19 年度古代庭園研究会報告書一』 2008.10、300 部 『Hamlet Survey Report Duong Lam Village Ha Tay Province Socialist Republic of Viet Nam』 2008.9、700 部 『平城宮第一次大極殿研究 基壇・礎石編』(奈文研学報第 79 冊)2009.2、600 部 『平城宮第一次大極殿研究 屋根編』(奈文研学報第 80 冊)2009.3、600 部 『近世瓦の研究』(奈文研学報第 78 冊)2009.3、500 部 『古代地方行政単位の成立と在地社会』(古代官衙・集落研究集会報告書)2009.1、1,000 部 『遺跡情報交換標準の研究 2』 2009.2、2,700 部 『出雲大社境外社建造物調査報告書』 2009.3、500 部 『遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度ー平成 19 年度遺跡整備・活用研究集会(第 2 回) 報告書一』 2008.11、800 部			
(史料等) 『平城宮出土陶硯集成 II』(奈文研史料第 80 冊)2009.3、600 部 『高松塚古墳フォトマップ資料集』(奈文研史料第 81 冊) 2009.3、1,000 部 『飛鳥藤原京木簡 2 藤原京木簡 1 本文編』(奈文研史料第 82 冊) 2009.3、600 部 『飛鳥藤原京木簡 2 藤原京木簡 1 図版編』(奈文研史料第 82 冊) 2009.3、600 部 『興福寺典籍文書目録第 4 巻』(奈文研史料第 83 冊) 2009.3、600 部 『山内清男資料 17』(奈文研史料第 84 冊) 2009.3、700 部 『飛鳥藤原宮出土木簡概報 22』 2008.11、1,000 部 『重要文化財建造物現状変更説明 1962ー1964』(本文編) 2009.2、500 部 『重要文化財建造物現状変更説明 1962ー1964』(図版編) 2009.2、500 部			
(図録、カタログ等) 『キトラ古墳壁画一子丑寅一』 2008.3、6,000 部 『まぼろしの唐代精華ー黄治唐三彩窯の考古新発見一』(飛鳥資料館図録第 49 冊) 2008.10、 4,000 部 『冬期企画展 飛鳥の考古学 2008』(飛鳥資料館カタログ第 20 冊)2009.2、2,000 部 『金属工芸史の研究』 2009.3、600 部 『地下の正倉院展ー長屋王家木簡の世界一』 2008.10、10,000 部			
(リーフレット) 『平城宮跡第一次大極殿院回廊の調査ー平城第 432・436 次調査一』 2008.9、2,000 部 『藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第 153 次調査現地説明会資料)』 2008.9、2,000 部			
【実績値】 新聞、雑誌等への寄稿および資料提供数、1,506 件			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：調査研究の実施状況 継続性：紀要、ニュース等の継続発行 正確性：調査報告書のデータ						

2. 定量的評価

観点	紀要等刊行数	研究報告書、研究論文集 刊行数	図録、史料等 の刊行数	新聞、雑誌等への寄稿および 情報提供数
判定	A	A	A	A
備考				

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年次ごとの調査研究事業の報告である紀要等2点、ニュース2種8点、研究報告書・研究論文集9点、史料等9点、図録・カタログ5点、リーフレット2点、合計35点を刊行し、研究成果を順調に刊行できたことでAと判定した。次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすい形での刊行に努めたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、ニュース、研究報告書、研究論文集、図録、史料などの刊行は順調に実施している。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6225-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No67

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 ((2)-②)		
【事業概要】			
第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル” の行方—文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル” という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長 田中 淳
【スタッフ】			
中野照男 (副所長)、勝木言一郎、山梨絵美子、津田徹英、綿田 稔、皿井 舞、江村知子 (以上、企画情報部)、相澤正彦、森下正昭 (以上、客員研究員)			
【主な成果】			
2008 (平成 20) 年 12 月 6~8 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催。のべ 281 名の参加者があった。なおこの研究集会の関連企画として、2008 年 10 月 9 日から 12 月 25 日まで東京国立博物館黒田記念館にて「湖畔 VS 湖畔」と題し、現代美術家の福田美蘭氏による《湖畔》を黒田清輝の《湖畔》と対峙させて展示を行った。			
【年度実績概要】			
プログラムは以下の通り。			
基調講演 モノより思い出、思い出よりモノ 塩谷純			
セッション 1: モノ / “オリジナル” と対峙する			
二点の中国古書蹟における光学調査 何傳馨 (国立故宫博物院)			
室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連— マシュー・P・マッケルウェイ (コロンビア大学)			
肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル— 浅野秀剛 (大和文華館)			
写真—オリジナルという認識の共有 岡塚章子 (江戸東京博物館)			
現代美術とオリジナル 松本透 (東京国立近代美術館)			
セッション討議 司会: 相澤正彦 (成城大学)・山梨絵美子			
セッション 2: モノの彼方の“オリジナル”			
「おじいさんの斧」: 日本文化史におけるオーセンティシティと再生—宇治橋を例に— タイモン・スクリーチ (ロンドン大学 SOAS)			
『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅 津田徹英			
燈明寺 (東明寺)「六」観音像をさぐる シェリー・ファウラー (カンザス大学)			
古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合— 飯島満			
雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪— 綿田稔			
仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる— 皿井舞			
更新のオーセンティシティー—木造建築におけるオリジナル— 清水重敦 (奈良文化財研究所)			
セッション討議 司会: 勝木言一郎・森下正昭			
基調講演 オリジナルとその保存—文化財アーカイブの可能性と限界— 加藤哲弘 (関西学院大学)			
セッション 3: “オリジナル” を伝えること			
鼎談 敦煌文書とアーカイブ 赤尾栄慶 (京都国立博物館)・マーク・バーナード (大英図書館)・中野照男			
サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想 山梨絵美子			
遊興文化の残映—彦根屏風の光学調査と情報化— 江村知子			
屋外彫刻調査保存研究会の活動について 田中修二 (大分大学)			
総合討議 司会: 佐野みどり (学習院大学)・田中淳			
【実績値】			
海外から招へいの発表者 5 名			
国内から招へいの発表者・司会者 8 名			
【備考】			
第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 “オリジナル” の行方—文化財アーカイブ構築のために』(予稿集) 400 部			

【書式B】	施設名	東京文化財研究所	処理番号	6225-00
-------	-----	----------	------	---------

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No67

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2. 定量的評価

観点	開催回数	印刷物数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本・東洋の美術を中心としながら、西洋の美学や現代美術、無形文化財をも視野に入れ、とくに文化財アーカイブの立場から“オリジナル”をとらえようとするテーマ設定には、多くの関心が寄せられ、フロアも交えた活発な議論が行われた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれも高い水準で実施でき、順調と判断した。なお各発表・討議の内容の詳細については次年度に報告書を刊行する予定である。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6225-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No68

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	平成 20 年度オープンレクチャー ((2)-②)		
【事業概要】 企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長 田中 淳
【スタッフ】 山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）			
【主な成果】 平成 20 年度に第 42 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：277 人、アンケートによる満足度：90%（回収率：68%）。			
【年度実績概要】 企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 42 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。 今回は 2 日間でのべ 277 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、191 人から回答を得た（回収率：68%）。結果は、「たいへん満足した」64 人、「おおむね満足した」91 人、「普通だった」13 人、「不満が残った」3 人、回答者の 91%が満足感を得たことがわかった。 第 1 日：2008 年 10 月 3 日（金）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室 「鬼子母神の源流をたずねる」勝木言一郎（東京文化財研究所） 「クチャ地域の石窟に描かれた供養者像とその信仰について」中川原育子（名古屋大学） 第 2 日目：2008 年 10 月 4 日（土）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室 「写真のなかの芸術家たち—黒田清輝を中心に」田中淳（東京文化財研究所） 「明治 10 年・西南戦争と上野公園地図」青木茂（文星芸術大学）			
【実績値】 参加者数：277 人 満足度：90%（回収率 68%）			
【備考】 アンケート集計表			

【書式B】				施設名	東京文化財研究所	処理番号	6225-01
(様式2)				自己点検評価調書			

研究所 No68

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適應しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Aと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次年度以降も文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

【書式B】
(様式1)

施設名 **奈良文化財研究所**
業務実績書

処理番号 **6225-02**

研究所 No69

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催 ((2)-②)		
【事業概要】 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。			
【担当部課】	管理部文化財情報課、 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良 業務課長 東 博信
【スタッフ】 永井あつ子、桑原隆佳、今西康益、飯田信男、石田義則、三本松俊徳 [以上、管理部]			
【主な成果】 研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を2回、飛鳥資料館特別講演会を1回、計3回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計5回実施した。 参加延べ人数は、公開講演会等が520名、現地説明会等が5,064名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し順調に事業が実施できた。			
【年度実績概要】			
I. 公開講演会等			
1. 第102回公開講演会 平成20年6月28日(土) 参加者数 220人 演題・講演者「平城宮跡国営公園園化のこと」 奈良文化財研究所長 田辺 征夫 「西大寺食堂院の井戸と古代」 都城発掘調査部 大林 潤 「造形意識の変革—霊廟建築に見る装飾意匠とその手法」 建造物研究室長 窪寺 茂 アンケート結果= 回収数147人・回収率66.8%満足度A=146人(99.3%)/B=1人(0.7%)/C=0人(0%)			
2. 第103回公開講演会 平成20年10月25日(土) 参加者数 220人 演題・講演者「復原大極殿の棟飾りにについて」 奈良文化財研究所長 田辺 征夫 「平城宮とその周辺の先史時代」 都城発掘調査部 森川 実 「洋風庭園と日本近代」 文化遺産部 栗野 隆 アンケート結果= 回収数147人・回収率66.8%満足度A=147人(100%)/B=0人(0%)/C=0人(0%)			
3. 飛鳥資料館特別講演会「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」平成20年10月18日(土) 参加者数80人 演題・講演者「唐三彩の生産と供給」 京都橋大学教授 巽 淳一郎 「鞏義黄冶窯とその他唐三彩窯の異同」 河南省文物考古研究所長 孫 新民 「唐青花の起源と発展」 中国文化遺産研究院 劉 蘭華 「鞏義黄冶窯の考古新収獲」 河南省文物考古研究所 郭 大森			
II. 発掘調査現地説明会等			
1. 平城第431次(中央区第1次大極殿院)発掘調査 平成20年6月7日(土) 参加者数 807人 報告者 森川 実 調査面積 630㎡ アンケート結果=回収数283人・回収35.1% 満足度A=153人(54.1%)/B=127人(44.9%)/C=3人(1.0%)			
2. 飛鳥藤原第153次(朝堂院朝庭部)発掘調査の現場公開 平成20年6月30日(月)～7月2日(水) 参加者数 965人 調査面積 約1,650㎡			
3. 飛鳥藤原第153次(藤原宮朝堂院朝庭)発掘調査 平成20年9月27日(土) 参加者数 953人 報告者 小田 裕樹 調査面積 約1,650㎡ アンケート結果=回収数270人・回収率28.3% 満足度A=180人(66.7%)/B=90人(33.3%)/C=0人(0%)			
4. 平城第432次・436次(第1次大極殿院西面回廊)発掘調査 平成20年9月28日(日) 参加者数 728人 報告者 和田 一之輔 調査面積 936㎡(432)、880㎡(436) アンケート結果=回収数244人・回収率33.5%満足度A=161人(66.0%)/B=80人(32.8%)/C=3人(1.2%)			
5. 飛鳥藤原第156次(石神遺跡第21次)発掘調査 平成21年2月14日(土) 参加者数 1,611人 報告者 青木 敬 調査面積 480㎡ アンケート結果=回収数263人・回収率16.3%満足度A=178人(67.7%)/B=82人(31.2%)/C=3人(1.1%)			
【実績値】			
I 公開講演会等 年3回：参加者延数520人 回収数294人・回収率66.8%： A大変満足である：293人(99.7%)/Bおおむね満足である：1人(0.3%) /Cあまり満足でない：0人(0%)			
II 発掘調査現地説明会等 年5回：参加者延数5,064人 内アンケート実施回数4回：参加者延数4,099人 回収1,060人 回収率25.9%： A大変満足である：672人(63.4%)/Bおおむね満足である：379人(35.8%) /Cあまり満足でない：9人(0.8%)			
【備考】			
飛鳥藤原第153次発掘調査現説風景			

【書式B】 (様式2)	施設名	奈良文化財研究所	処理番号	6225-02
自己点検評価調書				

研究所 No69

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：発掘調査等研究成果の適時適切な公開 独創性：公開内容の新規性及び卓越性 発展性：遺跡等の重要性の確認と社会への影響性 継続性：研究成果の継続的な社会還元						

2. 定量的評価

観点	開催回数	参加者数	参加者満足度			
判定	A	A	A			
備考 開催回数 公開講演会：年3回、現地説明会等：年5回 参加者数 公開講演会：年延350人以上、現地説明会：年延3,000人以上 参加者満足度 現地説明会：80%以上						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については、年3回実施し、発掘調査現地説明会等については、5回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対し行ったアンケートでは、公開講演会で100%、発掘調査現地説明会等で99.2%の「大変満足である」、「おおむね満足である」という結果を得ている。 これらの結果を総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会等の開催事業は、開催回数、参加者数ともに、従来の水準を維持し、順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握等に力を注ぎ、さらに参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

【書式B】
(様式 1)

施設名 東京文化財研究所
業務実績書

処理番号 6235-00

研究所 No70

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ホームページの運用((2)-③)		
【事業概要】 研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長 勝木言一郎
【スタッフ】 綿田 稔, 江村知子, 中村明子 (以上、企画情報部), 横山隆史 (管理部 LAN 委員), 俵木 悟 (無形文化財部 LAN 委員), 吉田直人, 加藤雅人 (以上、保存修復科学センターLAN 委員), 二神葉子 (文化遺産国際協力センターLAN 委員)			
【主な成果】 キッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。			
【年度実績概要】 1. ホームページの運用 東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成 20 年度はキッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図った。 平成 20 年度のホームページアクセス件数は 1,405,278 件であった。			
【実績値】 ホームページアクセス件数 : 1,405,278 件			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	ホームページ アクセス件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの運用については、ホームページが研究所の広報活動の一翼を担うとともに、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして多角的な情報発信を行ってきたことがホームページアクセス件数からも裏付けられた。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式B】
(様式 1)

施設名 奈良文化財研究所
業務実績書

処理番号 6235-01

研究所 No71

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保 ((2)-(3))		
【事業概要】 研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に努める。			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良
【スタッフ】 太田 仁 [管理部] ほかに 1 名			
【主な成果】 サーバを更新し、各コンテンツへのアクセススピードを向上させるとともに更新回数も増加させ、情報発信に努めた。			
【年度実績概要】 ホームページは研究所の事業・研究成果を広報する重要なメディアであるが、本研究所では共同通信社の提供する文化財関係のニュースを流すなど多角的な情報発信を続けている。記者発表・発掘現場説明会・公開講演会をはじめとする所内の情報についても、最新の情報を提供している。20 年度はサーバを更新し、アクセススピードも向上させた。			
【実績値】 ホームページアクセス件数: 701,711 件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 6235-01

研究所 No71

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	ホームページ アクセス件数					
判定	A					
備考 前中期計画中の平均ホームページアクセス件数：368,000 件						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページによる記者発表・現場説明会の案内等の多角的な情報発信は前中期の平均アクセス数を大きく上回っているために行なえたと考えられるが、多少減少傾向になっている。次年度以降はインターネットの利用状況を調べ直し、適切な情報発信を行いたい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究所のホームページはコンスタントにアクセスされ続けており、公開データベースを含めて精度の高い情報を提供できたと考えられる。この実績から今年度の中期計画の実施状況は順調と判断した。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 6305-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No72

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	黒田記念館における作品の展示公開 ((3))		
【事業概要】			
当研究所は、黒田清輝の芸術を顕彰するために黒田記念館において作品や資料、研究成果を公開するとともに、地方文化の振興に資するために、昭和 52 年からの事業として「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年 1 回地方において共催している。			
【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子
【スタッフ】			
田中 淳、塩谷 純、綿田 稔、皿井 舞 (以上、企画情報部)			
【主な成果】			
一般公開入場者 19,038 人 「写された黒田清輝Ⅱ」(黒田記念館二階展示室、09.3.19-7.9) 「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」(神戸市立小磯記念美術館、08.7-19-8.31) 入場者 18,757 人			
【年度実績概要】			
①一般公開(無料):毎週木・土曜日 午後1時～4時、特別公開:2008(平成20)年10月29日～11月3日、入場者数 19038人(2008年4月3日～3月28日) なお、黒田記念室のパンフレット(A4サイズ、三つ折)を作成し、来館者に無料で配布した。 また、記念館2階の展示室を会場に、「特集展示 写された黒田清輝Ⅱ」と題して、平成18、19年度に遺族から寄贈をうけた黒田清輝関係写真等から27点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した(会期:2009年3月19日～7月9日)。また、国際シンポジウムとの関連で、黒田清輝「湖畔」と福田美蘭の同作品を基にした「湖畔」を展示する「湖畔VS湖畔」を開催した(08.10.9～12.26)。			
②2009年2月12日から3月21日まで、来館者にアンケートを実施した。2,246人の来館者に対して、312人から回答を得た(来館者数の13.89%)。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」97.43%、「不満が残った」6人(1.6%)、その他であり、アンケート回答の97.43%が満足感を得たことになる。			
③平成20年度地方共催展は下記のように開催した。 会場:神戸市立小磯良平記念美術館、会期:2007(平成19)年7月19日(土)～8月31日(日) 主催:東京国立博物館、東京文化財研究所、神戸市立小磯良平記念美術館、神戸新聞社 開催日数:38日、入場者:18,757人 陳列点数:油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点(以上、黒田記念館所蔵作品) 図録:A4版変形、182ページ 会期中の2008(平成20)年7月27日(日)、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た(入館者数279人に対して、回収率57.7%)。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。			
④作品貸与:2件8点 黒田清輝「編物」「残雪」「昔語り下絵(構図Ⅱ)」(以上油彩画):「明治の洋画」展(茨城県近代美術館、08.8.2-9.23)1件3点 満谷国四郎「提灯」「娘習作」「娘習作」(以上油彩)、「人物」「写生帖」(以上素描):「五姓田のすべてー近代絵画への架け橋」展(神奈川県立歴史博物館 08.8.9-9.28)1件5点			
【実績値】			
黒田記念館 アンケート、同集計表 入場者の満足度:97.4% 共催展:入場者 18757人 入場者の満足度:100% 作品貸与件数:2件8点			
【備考】			
黒田記念館 アンケート、同集計表 共催展 アンケート集計表 「特集陳列 写された黒田清輝Ⅱ」パンフレット			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	黒田記念館 入館者数	同記念館 入館者満足度	共催展 入場者数	同入場者 満足度	作品貸与数	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田記念館の公開、共催展開催、作品の貸与、および黒田記念館における研究展示ともに順調に行うことができた。今年度は、国際シンポジウムとの関連企画として「湖畔VS湖畔」の展示も行われ、研究と展示公開との結びつきを強めることができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に従って事業を進めることができた。今後も、建物と作品および調査研究が一体化した展示公開を目指していきたい。

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6305-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No73

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化																																																
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開（「平城遷都1300年記念事業」と一体で実施） (3)(5)																																																
【事業概要】 平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を実施する。																																																	
【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 小林謙一																																														
【スタッフ】 千田剛道 [企画調整部]、桑原隆佳 [管理部]																																																	
【主な成果】 平城宮跡資料館において常設展及び速報展等を実施し、調査研究の成果の公開に努め、好評を博した。																																																	
【年度実績概要】 展示：平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を開催した。常設展は通年開催し、速報展等は以下の3件開催した。 ○特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界－」(2008.10.21日(火)～11.30(日)) 1988年に出土した平城京三条三坊にあたる長屋王家木簡約60点を展示した。 ○発掘速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査(平城第423次)」(2008.4.22日(火)～5.25(日)) 平城宮跡東院地区中枢部の調査(平城第423次)について、現地説明会(平成20年1月19日)以降の調査検討の成果を含めて写真パネル、図面、土器、瓦などを展示した。 ○発掘速報展「平城宮東方官衙地区の調査(平城第429次)」(2008.7.1(火)～8.31(日)) 平城宮東方官衙地区の調査(平城第429次)について、現地説明会(平成20年3月30日)以降の成果について、写真パネル、図面、唐草文鬼瓦や、灯明皿などの出土品、木簡写真などを展示した。 アンケート：平城宮跡資料館において、入館者に対するアンケート調査を行った。 アンケート実施期間 2008年10月21日(火)～11月30日(日) アンケート回収率 <table border="1"> <tr> <td>入館者数</td> <td>回収数</td> <td>回収率</td> </tr> <tr> <td>13,723名</td> <td>320名</td> <td>2.33%</td> </tr> </table> 常設展に対する満足度 <table border="1"> <tr> <td>入館者数</td> <td>回収数</td> <td>回収率</td> <td>満足度(普通以上)</td> </tr> <tr> <td>13,723名</td> <td>320名</td> <td>2.33%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>詳細：とても良い</td> <td>かなり良い</td> <td>普通</td> <td>あまり良くない</td> <td>まったく良くない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>35.0%</td> <td>41.6%</td> <td>18.1%</td> <td>1.3%</td> <td>3.1%</td> <td>0.9%</td> </tr> </table> 特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界」に対する満足度 <table border="1"> <tr> <td>入館者数</td> <td>回収数</td> <td>回収率</td> <td>満足度(普通以上)</td> </tr> <tr> <td>13,723名</td> <td>320名</td> <td>2.33%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>詳細：とても良い</td> <td>かなり良い</td> <td>普通</td> <td>あまり良くない</td> <td>まったく良くない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>38.1%</td> <td>31.0%</td> <td>20.9%</td> <td>2.8%</td> <td>2.8%</td> <td>4.4%</td> </tr> </table>				入館者数	回収数	回収率	13,723名	320名	2.33%	入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)	13,723名	320名	2.33%	94.7%	詳細：とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答	35.0%	41.6%	18.1%	1.3%	3.1%	0.9%	入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)	13,723名	320名	2.33%	90.0%	詳細：とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答	38.1%	31.0%	20.9%	2.8%	2.8%	4.4%
入館者数	回収数	回収率																																															
13,723名	320名	2.33%																																															
入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)																																														
13,723名	320名	2.33%	94.7%																																														
詳細：とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答																																												
35.0%	41.6%	18.1%	1.3%	3.1%	0.9%																																												
入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)																																														
13,723名	320名	2.33%	90.0%																																														
詳細：とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答																																												
38.1%	31.0%	20.9%	2.8%	2.8%	4.4%																																												
【実績値】 平成20年度の入館者数 入館者の満足度 公開日数 展示品貸し出し件数 92,597人 94.7% 308日 20件																																																	
【備考】 展示に因んでカタログを作成した。 特別企画展『地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界』2008.10																																																	

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	入館者数	入館者の満足度				
判定	A	A				
備考 年間入館者数 92,597名 (目標: 72,500名)						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示内容及び発掘速報展、特別企画展の実施などの順調な開催を評価し、Aと判定した。次年度は、平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルを予定しており、展示の一層の充実にむけて努力したい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	常設展、速報展ともに順調に開催できた。特に速報展では、各発掘現場の現地説明会以後の調査成果をもちこんだ展示を意図している。また、長屋王家木簡について、特別企画展として、通常は、資料保存のため展示をひかえている木簡現物を制限付きながら公開でき、観覧者から好評を博したことも特筆される。次年度には平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルを予定しており、調査研究の速報的な公開など、展示の一層の充実にむけて努力したい。

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開 ((3))		
【事業概要】			
飛鳥資料館において特別展を春秋の2回開催するとともに、企画展を開催する。春期特別展ではキトラ古墳壁画の特別公開を合わせて行う。平常展示においては第一・第二展示室の展示の維持管理を行うとともに、展示の手直しを適宜行った。			
【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長 杉山 洋
【スタッフ】			
加藤真二、西田紀子 [以上、飛鳥資料館]			
【主な成果】			
春期特別展「キトラ古墳壁画十二支一子・丑・寅」を4月18日から6月22日まで開催し、期間中の5月9日から5月25日までキトラ古墳壁画特別公開を合わせて行い、獣頭人身像子丑寅を展示した。会期中の5月17日には記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」を開催した。夏期企画展示は「飛鳥古寺巡礼」を8月1日から8月31日まで開催した。秋期特別展は「まぼろしの唐代精華 黄冶三彩窯の考古新発見」を10月17日から12月7日まで開催し、期間中の10月18日に、平城宮跡資料館においてシンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」を行った。冬季企画展は例年通り「飛鳥の考古学2008-平成19年度の発掘調査の成果から-」を2月3日から3月1日まで開催した。			
【年度実績概要】			
<p>春期特別展「キトラ古墳壁画十二支一子・丑・寅」を4月18日から6月22日まで開催した。獣頭人身十二支俑、康君墓誌蓋、韓国金庾信墓十二支浮き彫り拓本等を展示した。期間中の5月9日から5月25日までキトラ古墳壁画特別公開を合わせて行い、今回は獣頭人身像子丑寅を展示した。会期中の5月17日には記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」を開催した。</p> <p>夏期企画展示としては「飛鳥古寺巡礼」を8月1日から8月31日まで開催した。飛鳥の古寺の現在を新たに写真と発掘調査の成果を交えた展示を行った。</p> <p>秋期特別展は「まぼろしの唐代精華 黄冶三彩窯の考古新発見」は10月17日から12月7日まで開催した。研究所が中国河南省と行ってきた共同研究の成果である、中国でも屈指の唐三彩窯である黄冶窯跡の研究成果を中心に、出土品90点を借用して展示を行った。期間中の10月18日に、平城宮跡資料館においてシンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」を行った。日本側からは巽淳一郎氏(京都橘大学教授)、中国側からは孫新民氏(河南省文物考古研究所長)、郭木森氏(河南省文物考古研究所館員)、劉蘭華氏(中国文化遺産研究院研究員)による講演を行った。</p> <p>冬季企画展は例年通り「飛鳥の考古学2008-平成19年度の発掘調査の成果から-」を2月3日から3月1日まで開催した。昨年調査した石神遺跡、真弓罐子塚古墳、竹田遺跡、檜隈寺跡、島庄遺跡出土品などを展示した。</p>			
【実績値】			
刊行図書：4冊			
講演会：2回			
年間総入館者数：84,608名 特別展入館者数：68,366名			
【備考】			
春期特別展図録「キトラ古墳壁画十二支子丑寅」			
夏期企画展パンフレット「飛鳥古寺巡礼」			
秋期特別展図録「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」			
冬季企画展「飛鳥の考古学2008-平成19年度の発掘調査の成果から-」			
春期特別展 記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」5月17日			
秋期特別展 記念シンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」10月18日			



キトラ古墳壁画
獣頭人身像 寅

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性 独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性 正確性：数値・データ、達成値、網羅性						

2. 定量的評価

観点	論文等数	発表件数	入館者数			
判定	A	A	A			
備考 特別展図録：4冊 講演会：2回 年間入館者数：84,608名（目標：55,400名）						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>展覧会を春夏秋冬の4回開催し、展示図録等も順調に刊行することができた。講演会は2回開催し、そのうちの秋期の1回はシンポジウム形式とし、より来聴者への訴求度を増したと評価できる。定量的にも目標とする入館者数を大きく上回っている。こうした進捗状況を総合的に判定してAとした。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>本年度の計画を当初の予定どおり遂行したことから、当事者は順調であると判定した。</p>

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6305-03

(様式 1)

業務実績書

研究所 No75

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開 ((3))		
【事業概要】 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実をはかる。			
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 松村恵司
【スタッフ】 豊島直博、廣瀬 覚、青木 敬、木村理恵、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、若杉智宏、次山 淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番 光、市 大樹、降幡順子 [以上、都城発掘調査部]、井上直夫、岡田 愛 [以上、企画調整部]			
【主な成果】 藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実が図られた。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するため速報コーナーを設け継続して多様な調査成果を公開した。併せて、展示のための資料制作、各地の博物館等への出陳も行った。			
【年度実績概要】 都城発掘調査部飛鳥・藤原地区庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体等へは展示説明、藤原宮跡、発掘調査現場の案内等の対応をした。 エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するための速報コーナーを設け、藤原宮大極殿院南門出土土鎮具（2008年3月18日～2008年4月18日）、藤原宮大極殿院南門（第148次）、甘檜丘東麓遺跡（第151次）、藤原宮朝堂院朝庭部（第153次）の速報展示を実施した。また、保存処理の終了した石神遺跡（第19次）出土敷葉工法遺構の切り取り資料、キトラ古墳石室石材の展示・公開を実施した。 地方公共団体の博物館等の求めに応じ、各種展覧会への保管遺物並びに模型・模造品等の出陳、保管遺物のレプリカ作製を行った。			
【実績値】 平成20年度の入室者数4,423人、開室日242日、各種団体等への展示説明11件、遺物等貸し出し等件数11件、レプリカ作製依頼1件			
【備考】			

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6305-03

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No75

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：発掘調査・研究成果の速やかな公開 独創性：展示公開のための出土遺物・遺構の保存修復作業 継続性：常設展示及び速報展示の恒常化 発展性：速報展示における展示方法、内容の工夫						

2. 定量的評価

観点	入室者数					
判定	A					
備考 年間入室者数：4, 423名（目標：3, 800名）						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーが定着し、調査成果公開の速報性がより高まった。入室者数も適切であり、総合的にAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	速報展示等も、充実した内容のもとに継続的に実施されており、順調と判断した。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所
業務実績書

処理番号 6405-00

研究所 No76

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力 ((4))		
【事業概要】			
文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。			
○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力			
○各種行事、発掘調査等の連絡調整			
○修繕等に係る相談、状況の把握、等			
【担当部課】	管理部業務課	【プロジェクト責任者】	業務課長 東 博信
【スタッフ】			
今西康益、飯田信男、志野愛由美、三本松俊徳、松本正典 [以上、管理部]			
【主な成果】			
◇平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。			
◇平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を次のとおり実施した。			
○平城宮跡 [対象面積：915,150 m ²]			
○藤原宮跡 [対象面積：257,840 m ²]			
【年度実績概要】			
◇平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。			
○宮跡利用申込みに対する連絡及び申込者との打合せ			
○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整			
○大極殿の特別公開、平城宮跡の国営公園化、平城遷都1300年記念事業等の公開・活用事業に対する協力・支援			
○宮跡内建物、工作物等の修繕に当たり、状況の把握、文化庁・業者との連絡調整、現場監理等			
・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理			
・平城宮跡内グレーチング設置工事			
・平城宮跡内松枯処分			
○住民等からの苦情対応・取次ぎ			
・宮跡内水路、道路等の修理改善等			
・アレルギー発生対応			
・蜂の巣駆除			
○平城宮跡内禁止行為への対応・異状報告			
・平城宮跡内火災対応			
○所轄消防署との連絡調整			
○溝蓋盗難・強盗事件捜査協力のための警察署との打合せ			
◇平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を次のとおり実施した。			
○平城宮跡 [対象面積：915,150 m ²]			
・草刈り等 (芝、雑草、草花類)			
実施時期：4～11月 作業員：6名(うち派遣3名)			
作業回数：1～6回(整備エリアによって作業回数が異なる)			
・植栽等 (表示、景観樹木類)			
実施時期：12～3月 作業員：6名(うち派遣3名)			
作業回数：1～6回(整備エリアによって作業回数が異なる)			
・その他			
側溝等工作物清掃維持、害虫駆除			
○藤原宮跡 [対象面積：257,840 m ²]			
・草刈り等 (芝、雑草、草花類)			
実施時期：4～11月 作業員：3名(+外部委託)			
作業回数：1～2回(整備エリアによって作業回数が異なる)			
・植栽等 (表示、景観樹木類)			
実施時期：12～3月 作業員：3名(+外部委託) 作業回数：1回			
・その他			
耕作物用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除			
【実績値】			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応 独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与 発展性：専門知識を生かした協力による人的投資上の効率性 継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	<p>平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に、良く対応している。</p> <p>さらに、平城宮跡国営公園化や平城遷都1300年祭記念事業の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。</p> <p>これら実績から、Aとしたものである。</p>

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。</p> <p>特に、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。</p> <p>なお、今後、平城宮跡国営公園化や平城遷都1300年祭記念事業の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援のあり方について検討する。</p>

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6405-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No77

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化														
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の運営 ((4))														
【事業概要】															
<p>平城宮跡の来訪者に平城宮跡解説ボランティアが、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うことにより、研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化遺産に対する理解を深めてもらう。</p> <p>年間約8万人に解説事業を行い、解説ボランティアについては、継続的に約100名確保し、研修、学習会の実施や解説資料の配付等の積極的な活動支援を行う。</p>															
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良												
【スタッフ】															
千田剛道 [企画調整部]、永井あつ子、桑原隆佳 [以上、管理部]															
【主な成果】															
ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。															
【年度実績概要】															
<p>20年は平城宮跡を訪れた約8万人に案内・解説を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解説ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。</p> <p>この事業は、9年を超え定着してきているが更に充実させるため、解説を受けた来訪者にアンケート調査を行った結果、93.4%が良かったと答えている。</p> <p>解説ボランティアの活動支援として、解説のための専門研修(8日間)、「続日本紀」読書会(毎月1回)等を実施し、解説資料の配付を行うなど積極的に支援した。</p> <p>○アンケート調査集計表(回答197)</p> <p>ボランティアの解説を受けられた方にお尋ねします。解説の満足度はいかがですか。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 とてもよい</td> <td>101 (51.3%)</td> <td>2 かなりよい</td> <td>43 (21.8%)</td> </tr> <tr> <td>3 ふつう</td> <td>40 (20.3%)</td> <td>4 あまりよくない</td> <td>3 (1.5%)</td> </tr> <tr> <td>5 まったくよくない</td> <td>10 (5.1%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1 とてもよい	101 (51.3%)	2 かなりよい	43 (21.8%)	3 ふつう	40 (20.3%)	4 あまりよくない	3 (1.5%)	5 まったくよくない	10 (5.1%)		
1 とてもよい	101 (51.3%)	2 かなりよい	43 (21.8%)												
3 ふつう	40 (20.3%)	4 あまりよくない	3 (1.5%)												
5 まったくよくない	10 (5.1%)														
【実績値】															
<ul style="list-style-type: none"> ・ 解説ボランティア：131名 ・ ボランティア解説延べ人数：約8万人 ・ 各種ボランティアに対する学習会等 <ul style="list-style-type: none"> 専門研修 8日間/年 『続日本紀』読書会 1日間/月 															
【備考】															

1. 定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 継続性：ボランティア解説者の学習等により基礎的知識は十分な成果を認める。 効率性：ボランティア解説者の案内は十分に成果を認める。 発展性：ボランティア解説者の来訪者への影響は十分な成果を認める。 正確性：ボランティア解説事業の運営に十分な成果を認める。						

2. 定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			
備考 ボランティア登録者数：100人 事業参加者数：45,000人 参加者の満足度：80%						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティア解説者の学習成果により、ボランティア解説を受けた方の満足度が93.4%が良かったと答えていることから、総合的に判断してAと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説ボランティア事業は、ボランティアの更なる研修、事業参加者数の増加、ボランティアへの積極的な支援も順調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ平城宮跡の公開活用に力を注ぎたい。

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 6405-02

(様式 1)

業務実績書

研究所 No78

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化		
プロジェクト名称	各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援 ((4))		
【事業概要】			
平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、平城宮跡（施設を含む）を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する			
【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長 平石憲良
【スタッフ】			
千田剛道 [企画調整部]、永井あつ子、桑原隆佳 [以上、管理部]			
【主な成果】			
ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。 また、他のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。			
【年度実績概要】			
各種ボランティアに対する学習会等を実施した。 平成 13 年 11 月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な活動支援を行った。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣、平城京かるたの監修等の協力、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、平城宮跡歴史文化講座を行った。それらは新聞等でも紹介され好評であった。 また、「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいとの要請があり、活動場所の提供を行った。			
【実績値】			
・各種ボランティアに対する学習会等			
専門研修		8 日間／年	
平城宮跡クリーンフェスティバル		1 日間／年	
清掃活動	1	1 日間／年	
平城宮跡歴史文化講座		3 日間／年	
万葉集勉強会		1 日間／月	
平城っ子歴史教室		1 日間／月	
【備考】			

1. 定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 継続性：各種ボランティアへの支援には、十分な成果を認める。 適時性：各種ボランティアへの支援は、学習会の実施等十分な成果を認める。 効率性：各種ボランティアへの場所の提供要請等には、十分な成果を認める。						

2. 定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			
備考 ボランティアに対する学習会実施回数：2回 参加者数：150人						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル及び平城宮跡歴史文化講座への場所提供等、種々の支援を行い、活動の活性化に貢献した。これらを総合的に判断して、Aと認めたものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各種ボランティアの要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。今後も各種ボランティア育成に寄与したい。

中項目	6 情報発信機能の強化
-----	-------------



事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続し、機能等の問題点を検討した。 ・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うための条件の整備を推進した。 ・これまで未公開であったモノクロフィルムの画像データベースを館内業務などで公開した。来年度は「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」において公開予定である。 ・来年度中に古文書の画像データベースを公開する見通しである。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部と科学研究費による成果を公開するとともに、科学研究費による成果である古写真データベースをこれまでの6,676件から14,907件に拡充した。 ・「東京国立博物館ウェブサイト」の「画像検索機能」の検索対象画像をこれまでの約5万点から約5万1千点に拡充した。 ・ウェブサイトにおけるカラーフィルムの画像検索機能を改善し、検索速度を向上させる準備をした。 ・将来的な収蔵品情報の外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」の構築を進め、業務遂行上で列品の貸与に関する情報を円滑に検索、取得できる機能を充実化した。 ・モノクロフィルムの画像データベースを、館内業務および資料館での一般利用に提供を開始した。 ・科学研究費の成果である古文書の画像データベースの公開の準備を行った。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ウェブサイトへのアクセス件数 検索対象画像の拡充	5,211,261件 約51,000点	1,928,966 —	A —		2,923,564 約26,000	3,680,028 約26,000	5,504,468 約50,000	5,211,261 約51,000
年度実績評価総括	S Ⓐ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



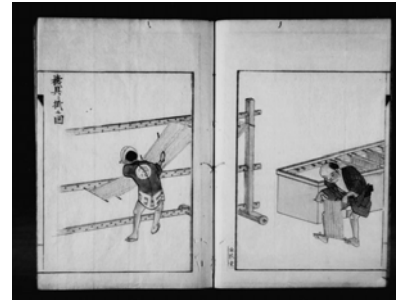
情報アーカイブ・ウェブサイト

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化								
担当者	担当部課	総務課、学芸部	事業責任者	総務課長 大西真一 列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。 ・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。 ・京都国立博物館メールマガジンを継続配信し、加入者数は3,342件である。 ・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。 								
	 								
	特別展紹介・収藏品データベース（モバイルサイト）			学叢 WEB 公開					
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、特集陳列、平常展示、各種講座・イベント等、各コンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。 ・携帯電話端末用サイト内の収藏品データベースの掲載データを追加し、アーカイブとしての充実に努めた。また、モバイル収藏品データベースの収藏品画像の拡大機能は、引き続き(株)NTTドコモの協力により、実証実験を兼ねた提供を行う。 ・学叢 WEB 公開は、現在販売中のものの在庫状況・販売現況及び学術的価値を総合的に判断しながら、適宜オンラインでの公開を促進し、さらに大学・博物館等の研究活動に寄与する。 ・京都国立博物館メールマガジンの継続運用を行い、24号まで刊行。臨時号の配信も行う。加入者は順調に増加しており、昨年度より、984件登録者が増加した。 ・ウイルス対策システムのリプレースを実施し、継続的な情報資源に対するセキュリティ強化を図った。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ウェブサイトへのアクセス件数	1,409,634件	521,965件	A		572,936	757,812	733,885	1,409,634
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	<p>文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。</p> <p>①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。</p> <p>ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。			順調に成果を上げている。					

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表 ①自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化								
担当者	担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	情報サービス室研究員 野尻 忠					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・PC用ホームページを全面的に構築しなおし2月より公開を始めた。これにより更なる文化財情報発信の基盤が整った。 ・研究紀要『鹿園雑集』10号を刊行し、論文3本、国際研究集会の研究報告2本、資料紹介2本ほか各種調査報告3本を掲載した。 ・展覧会図録を7冊刊行した。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」(年4回刊行)の各号に、文化財調査研究成果の一端を掲載し、また3号にわたり展示活動への取り組みについて掲載した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2月1日にPC用ホームページを更新した後、ソフトの不具合によりアクセス件数のカウントができない状態が続いた。(4月より復旧予定) 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ウェブサイトアクセス件数	1,230,774	670,948	A		986,133	1,249,608	1,402,834	1,230,774
年度実績評価総括	S A B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることをとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調					


中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央					
実績・成果	①九州国立博物館のホームページをリニューアル ②ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応 ③特別展ごとに「ブログるぼ」の実施								
補足事項	<p>①当館ホームページを見に来られる方に対して、「見やすさ」、「わかりやすさ」をモットーにリニューアルを行った。また、夜間、休日の情報掲載や迅速な情報提供も出来る限り即時対応に努めている。</p> <p>②利用者からの質問、意見等については、適切に九博メールでの回答を行っている。</p> <p>③「ブログるぼ」は、WEB上でブログ執筆希望者を募集し、実際に特別展を観覧した方に、撮影禁止の館内画像等を提供して、ブログを書いてもらう仕組みとなっている。これは、ネット社会へ柔軟に対応した先駆的事例であり、特別展の広報活動の一環でもある。</p>				 <p style="text-align: center;">ホームページのリニューアル前</p>  <p style="text-align: center;">ホームページのリニューアル後</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ウェブサイトアクセス件数	5,699,860件	5,000,000	A	—	7,118,540	5,943,616	5,699,860	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。						順調に成果を上げている。			

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次					
実績・成果	1) 収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化に着手し、マイクロフィルムは目標を大きく上回るデジタル化を行った。 2) 国指定文化財のカラーフィルムのデジタル化と、モノクロフィルムの遡及入力を実施した。 3) 美術品台帳のテキストデジタル化で、収蔵品の基本情報を充実させ、モノクロフィルムはデータの精度を向上させた。 4) 法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。今後は利便性の向上と、内容の更新につとめていきたい。								
補足事項	1) 収蔵品等の写真の高精細デジタル化 ・所蔵品等の4×5カラーフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・これまで未着手であった昭和40年代以前の所蔵品等の4×5モノクロフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・18年度から撮影を開始した所蔵品等のマイクロフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・カラーのデジタルデータについては、来館者をはじめとする幅広い利用者の求めに応じて、利用に供した。 ・マイクロフィルムについては、インターネットを通じた情報提供ができる環境構築の検討と準備を進めた。 2) 国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化 ・国指定文化財のカラーおよびモノクロフィルム画像のデジタル化を実施した。 3) 収蔵品の基本情報のデータ化 ・美術品台帳のテキストデジタル化を実施した。 ・これまで未整理であったモノクロフィルムの被写体データの調査をした。 4) 法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供 ・事業計画のとおり法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供を継続した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	139,000件	23,000件 (18,829件)	A —		20,556	4,472	153,000	139,000
	うち4×5フィルム	17,400件	3,000件						
	うちマイクロフィルム	121,600件	20,000件						
収蔵品の基本情報のデータ化	553,000字	300,000字	A		70万	50万	30万	55万3千	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



マイクロフィルムデジタル化
(《諸国製造品》)

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 大西真一					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を暫時行っている。 ・ 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」としてウェブサイト上で公開した。 								
	 <p>公開収蔵品データベース</p>			 <p>重要文化財高精細画像公開システム「KNM Gallery」</p>					
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム（館内研究・管理用）及び公開収蔵品データベース（一般公開）に暫時登録し、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行う。 ・ 当館所蔵指定文化財の画像の約 9 割を高精細画像化し、六カ国語（日英韓中仏西）での提供を 20 年度にウェブサイト上で公開した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	6,478 件	4,359 件	A		5,568 件	6,169 件	8,047 件	6,478 件
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	<p>文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。</p> <p>②-1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	学芸部資料室	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
実績・成果	<p>本事業は、仏教美術を中心とした文化財に関わる情報資源の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当館で調査研究および写真撮影をおこなった文化財の情報を、情報システムへ登録し、データを6,989件更新した。 上記のうち公開準備のできたものを写真検索システムへ登録し、データを4,019件更新・公開した。 重要文化財を中心とした収蔵品の写真原板を910件デジタル化した。 当館所蔵のガラス乾板を500件デジタル化した。 重要文化財等の収蔵品データベースの公開にむけて、テキストデータ、高精細画像データの整備をおこなった。 <p>今年度は、調査及び写真撮影を行った文化財の情報整備と写真原板整理を重点的に行った結果、登録データを大きく増加させることができた。また収蔵品データベースの公開に向けて、写真原板のデジタル化も例年より大きく推進させることができた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵品・寄託品、展覧会等で借用した文化財について写真撮影をおこない、その情報をシステムに継続して登録しており、情報の蓄積・公開が順調に進んでいる。 重要文化財等の収蔵品データベースの公開にむけて、図版目録や台帳掲載の基本情報、解説文をデータベースに継続して登録した。また、高精細画像データの整備も進めている。今後とも関連情報のさらなるデジタル化を図る。 			 <p style="text-align: center;">写真検索システム</p>					
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	登録データ	6,989件	2,000件	A		3,591	3,838	3,889	6,989
	公開データ	4,019件	—	—		2,169	2,058	2,017	4,019
	デジタル化件数	8,399件 件	8,471件 —	B —		3,775	3,830	4,584	8,399
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F (S、Fの理由)今年度は既存原板の整理を集中的に行った結果、処理数が大幅に増加した。</p>								
中期計画記載事項	<p>収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-1 デジタル化の推進								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	文化財課長 臺信祐爾					
実績・成果	収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,963件)								
補足事項	<p>新たに撮影した収蔵品・出品作品をデジタル撮影した。 また、フィルム撮影の写真についても順次3種類のデジタルデータ(300KB、2MB、120MB)に変換した。</p> <p>本年度から文化庁が推進する「文化遺産オンライン」に当館情報をアップした。</p> <div data-bbox="1043 801 1378 1223" data-label="Image"> </div> <p>(新規撮影作品) 重要文化財釈迦三尊像(梅林寺蔵)</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	3,963件	600件	A		1,914	2,898	3,295	3,963
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

中項目 6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 高橋裕次					
実績・成果	<p>〈収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入図書395冊、寄贈・交換図書7,386冊、館藏品等の写真資料4,703 枚 <p>〈整理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規整理 図書 7,781 冊・逐次刊行物 3,638 冊、遡及入力 図書 5,709 冊 <p>〈資料整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑誌等の製本 581 冊、修理製本 186 冊 バーコードラベル貼付と合わせてデータの確認作業を実施し、累計で 130,824 枚のバーコードラベルを図書に貼付した。あわせて今年度は約 17,000 件のデータ修正を行った。 <p>〈公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 視聴覚コーナーで 230 点のビデオ、DVD 等を公開した OPAC で図書 155,836 冊、雑誌 5,074 タイトル、目次・論文データ 4,000 件を公開し、レファレンスサービスを充実させた。 法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。 								
補足事項	<p>〈収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館の調査研究や事業・運営に有用な図書を購入、交換・寄贈等により収集した。また、館藏品を中心に撮影した写真資料を整備した。 <p>〈整理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 遡及入力は、書庫内の登録済み未整理図書(和書)約 1,000 冊、一般洋書 1,660 冊、東京国立博物館の展覧会目録の複本類等を中心に実施した。 <p>〈資料整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常雑誌製本に加え、考古学会寄贈および松浦氏寄贈の外国語雑誌の合冊製本を実施した。 所蔵図書のバーコード貼付を行い、図書館システム導入時のデータ既存の図書全て(不明本を除く)への貼付作業を完了した。 <p>〈公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 閲覧室に視聴覚資料コーナーを新設し、公開可能な中より 230 点のビデオ、DVD 類を閲覧室に開架した。 図書・逐次刊行物の遡及入力を継続して推進した。また東京国立博物館刊行物「Museum」、「紀要」、カタログ(2002 以降)等の目次・論文データの入力により、OPAC 検索対象件数を大幅に増加した。 OPAC の更新を行い、雑誌一覧(A to Z)、コーナー図書、My Library(館内のみ)等を公開して検索の利便性を高め、また、美術館図書室横断検索にも継続して参加した。 マイクロフィルムの冊子体目録を作成した。 これらの整備の結果を、レファレンスサービスの充実に役立てることができた。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収藏品等の写真撮影・関連データ整備	4,703 件	3,000 件	A		5,432	4,472	3,642	4,703
	新規図書整理	7,781 件	—	—		6,045	1,118	4,013	7,781
	遡及図書整理	5,709 件	—	—		—	—	4,574	5,709
	年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)							
中期計画記載事項	6 情報発信機能の強化 ②-2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



(上)視聴覚資料コーナー
(下)OPAC レファレンスサービス画面

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数 6,478件 								
補足事項	・観覧者向け図書閲覧サービスコーナーは、平常展示館の閉鎖とともに終了した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備	6,478件	約5,000件	A		5,595	5,910	4,256	6,478
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者						
実績・成果	<p>本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸業務の情報資源として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、情報サービスをおこなっている。図書の新規受入は、1,520冊、展覧会カタログは489冊を数えた。これにより、同センターの保有する資料の総数は図書約65,000冊、展覧会カタログ約10,000冊、雑誌約3,000タイトルとなった。これらについては随時書誌データを図書管理システムに入力し、検索の利用に供している。今年度は中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。</p> <p>一方、同センターの書架が分野によっては飽和状態にあるため利用頻度で分別し、利用頻度の低い資料については別置場所を確保し、利用空間を確保した。</p>								
補足事項	<p>従前より仏教美術に関する資料の充実化をはかっているが、関連研究分野の拡張化や学際化が近年著しく、当館でも新たな分野の資料の強化・整備がさらに必要である。今後とも、仏教美術関係の資料収集はもとより、多様な資料の蓄積をはかると共に、効率のよい資料整理・公開の方法についても検討して行きたい。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	図書 展覧会カタログ 収蔵品・出品作品 等の写真撮影・関 連データの整備	1,520件 489件 6,457件	— — 3,000	— — A		950 1,044 9,118	1,930 460 8,406	2,280 532 3,240	1,520 489 6,457
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調								



中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 (1/2)								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 畑 靖紀					
実績・成果	① 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備している。(6,633件) ② 博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベースの効率的な運用を検討し、実施する。								
補足事項	①収蔵品・出品作品などについて2,000件を超す写真を撮影し、写真データベースの充実を図った。 ②博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベースは、稼働中の業務システムにおいて効率的に運用している。購入・寄託・寄贈や借用などにもなう新規の収蔵品や図書データは随時入力するとともに、既存データについても未記入項目の遡及入力を実施し充実を図っている。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収蔵品・出品作品等の写真撮影および関連データ整備件数	6,633件	600件	A		3,996	3,479	12,556	6,633
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



収蔵品写真撮影風景

中項目	6 情報発信機能の強化								
事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②-2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 (2/2)								
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員 永井 真佐美					
実績・成果	海外調査（ベトナム）で撮影した写真やビデオをあじっば等の展示や教育普及事業で活用している。								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育普及施設である体験型展示室「あじっば」の一面の「あじ庵」でドンホー版画のぬりえや民族衣装の着せ替え、天秤棒担ぎなどの体験コーナーを設置した。 ○ 「あじ庵」で、「ハノイの街」「ベトナム伝統の技」「水上人形劇」などの映像を流した。 ○ ディスプレイで、中秋節をはじめベトナムを代表するような生活習慣がわかるような雑貨などを展示した。 ○ 体験型展示室「たなだ」に、ハノイの街を再現した覗きBOXを設置した。 								
									
									
	あじ庵「カフェ・ハノイ」			ベトナム・ディスプレイ					
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ハンズオン資料	136件	100件	A					136
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

